

# 靴の歴史散歩 ⑧〇

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

内田直二商店発行の『靴靴定価表』の見返しに、店主挨拶が載っているのですが、まずそれをご紹介します。

句読点も改行もなく、ひたすら柀目を埋めるように活字が並んでいるので、少々読みにくいかと思うが、ご容赦いただきたい。

弊店ハ明治二年創業以来靴靴製造販売仕  
り大方各位ノ御愛顧ト多年斯業研鑽ノ功果  
ニヨリ品質ノ優良技術ノ精美保存ノ耐久価  
格ノ康等ハ勿論使用原料及ゴム製靴並ニ附  
属品等ハ悉ク英米佛有名ノ工場ト特約ヲ結  
ビ指定特製ノ上直輸入致華客諸□ノ案出研  
究精緻ヲ極メスタイルノ如キハ時代思潮ニ  
鑑ミ薪新ナル意匠ヲ凝ラシ日ニ月ニ新形ノ  
案出研究ニ熱心従事罷在リ候ヲ以テ顧客各  
位ニ於テモ弊店ノ製品ハ他ニ匹敵スルモノ  
ナキヲ承認セラレ從テ内外貴紳各位ヨリ陸  
続御注文ノ榮ヲ賜ヒ何レモ十二分ノ御満足  
ヲ以テ益々御□顧ヲ辱フシ是ガタメ弊店ハ  
年ト共ニ隆盛ヲ加ヘ  
東洋ニ於ケル新形流  
行ノ淵源トシテ常ニ  
其ノ魁トナリス業界  
ノ霸王ト迄称セラル  
ニ至リ候段弊店ノ最  
モ光榮トスル所ニ御  
座候是全ク御得意様  
各位ノ御庇蔭ニ由ル  
モノト存ジ店主及店  
員一同厚ク御禮申上  
候尚爾今一層奮勵仕  
大方各位ノ御愛顧ニ  
背カザルコトヲ期シ申

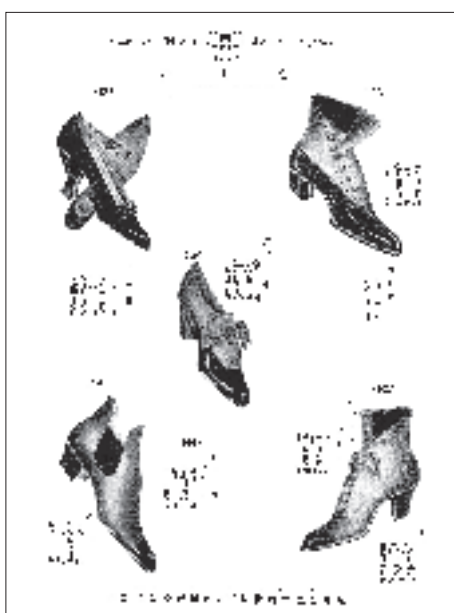
候何卒多少ニ不拘御用命仰セ付ラレ度奉祈  
上候

切れ目のない文章に、明治の匂いと店主の熱気が伝わってか、中略もならず、思わず全文紹介となってしまった。

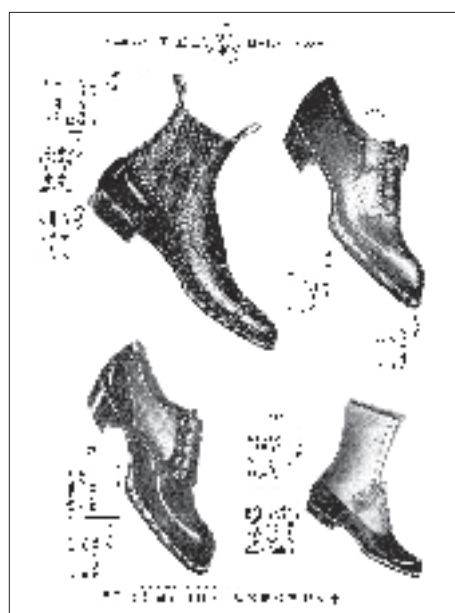
さて定価表には、紳士靴88点、婦人靴29点、子供靴15点が掲載されていて、それぞれに並製と特製の値段が並記されている。おおよそ紳士靴で6円から12円ぐらゐまで、婦人靴も似たような値段設定である。(写真参照)

明治23年(1890年)に帝国ホテルが開業しているが、その宿泊代が最高で12円、最下等室でも5円であったというし、前年に開場した歌舞伎座が、上等棧敷で4円70銭、上等平土間(現在の一階A席)で2円80銭だったというから、靴の値段との比較ぐらいはできるのではないだろうか。

(この項続く)



婦人靴



紳士靴